



## 株式会社 ひなもり銘木

まるの のりこ  
丸野 典子さん

まるの やすひろ  
丸野 泰宏さん

特殊な趣を持つ貴重な木材「銘木」。卓越した目利きでその価値を見極め、過去に宮内庁や文化庁に納めてきた銘木店がある。「株式会社ひなもり銘木」。

67年続くこの銘木店を営むのは、丸野親子。創業者の先代が全国を歩き集めた銘木を、二代目の決意を胸に、全国に届けている。

小林  
こばやしびと  
Vol.60

ひなもり銘木は、木材だけでなく、宮崎県伝統的工芸店に指定された囲碁・将棋盤の製造販売を行う銘木店。10年前、先代の泰宏さんから経営を引き継いだ典子さんが切り盛りする。

「当初は経営や木の知識も浅く、このままでは店の木材を求める人に届けられなくなると不安でした」。

怖くもあったが、とにかく現場に身を置いた。木材の販売に一人出かけ、フォークリフトの免許を取

り、作業にも加わった。また、木材アドバイザーの資格を取り、精力的に木材の知識を学んできた。女性ならではの目線で工夫を凝らした商品開発も行う。「いいものを長く使ってほしい」と、使い捨てにならないような箸やまな板を製造。端材を使用し、気軽に買える銘木商品に仕上げている。

そんな典子さんを支えるのが、息子の泰宏さん。5年間愛知県で修業し、昨年2月に帰郷した。先代から

引き継いだ宝ともいえる木材の加工、乾燥工程などを仕切る。「木本来の良さを最大限生かしたい」。些細な自然の変化にも気を許さず、香りと質を保つ。

親子二人が今思うのは感謝。「豊かな自然の恩恵と、先代の頃から働く職人、従業員、そして地域の人々に支えられてきました」。

自然と人との橋渡し役を担う「銘木店」。銘木という2つとない美に、今日も真摯に向き合っている。



写真一段目) 希少な幅広の木材を、最高の状態で販売できるよう気を配る。二段目) 朴やイチョウの木の端材で作るまな板は、ツヤを帯び、見た目も美しい。三段目) 囲碁・将棋盤などの展示室